

平成29年度 岡山県学力・学習状況調査結果の概要について

1 岡山県学力・学習状況調査の実施状況

(1) 調査の目的

児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策及び教育指導の成果と課題を検証・改善するとともに、結果に基づき個々の児童生徒が自らの学習等の改善に資する。

(2) 学力調査の実施日 平成29年4月18日（火）

(3) 参加校数・児童生徒数・実施教科等

	小学3年生	小学4年生	小学5年生	中学1年生	中学2年生
参加校数	295校	299校	298校	121校	118校
児童生徒数	10,019人	10,297人	10,135人	10,212人	10,321人
全国受検者数	約8万人	約12万人	約15万人	約10万人	約10万人
実施教科等	国語・算数	国語・算数	国語・算数 質問紙調査	国語・数学 質問紙調査	国語・数学・英語 質問紙調査

※参加校は、岡山市を除く、県内全ての公立小・中学校（特別支援学校小学部、中学部を含む。）

※全国受検者数は、1学期版を受検する予定者の概数

2 学力調査の結果

※本調査は、全国値の正答率を50としたときの換算値と、問題作成業者の想定正答率である目標値を用いて結果を比較する。なお、本結果で用いる全国値は、調査結果返却時点での速報値である。

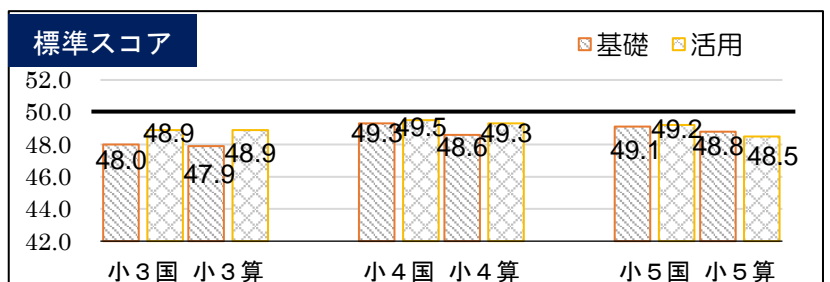
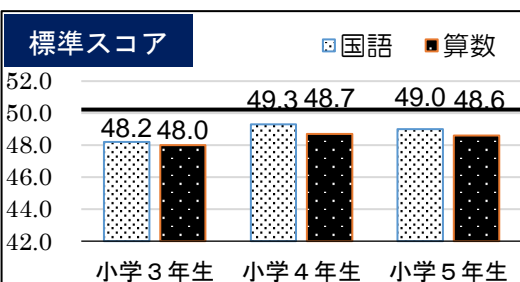
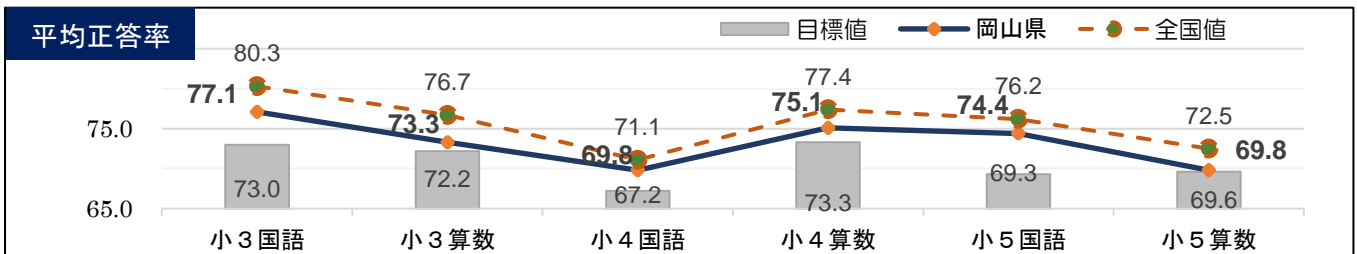
【小学校】

(1) 調査結果の概要

各教科の結果は、基礎問題、活用問題ともに、全ての学年において目標値を上回っているが、全国値には届かず、特に小学校低学年の学習定着度に課題があると言える。

過去の全国学力・学習状況調査において課題であった、国語の「書くこと」、算数の「量と測定」は、今回の調査においても全学年で全国値との差が大きいことから、本県の子どもたちが苦手としてきた領域は、小学校低学年段階からの系統的な指導が必要であり、組織的な改善に向けた取組を更に進める必要がある。

(2) 各学年の学力調査結果



【中学校】

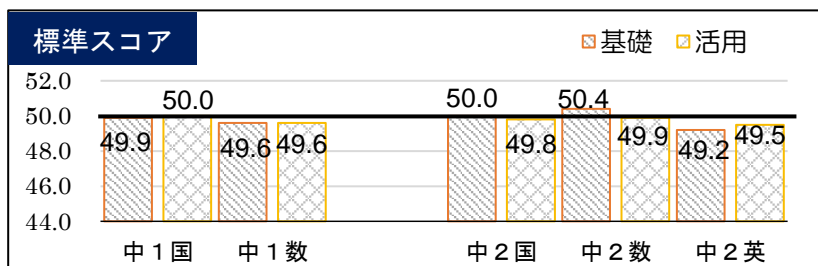
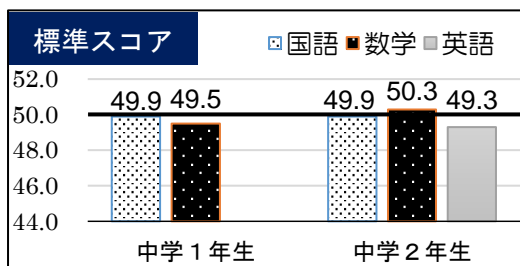
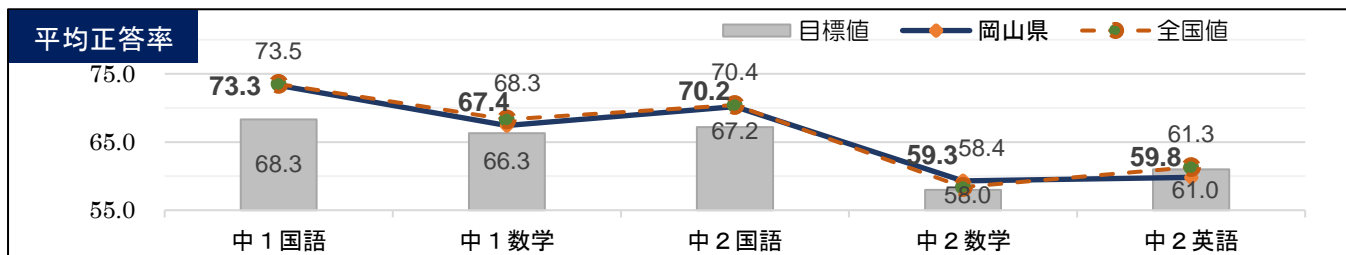
(1) 調査の概要

各教科の結果は、基礎問題、活用問題ともに、英語を除いて目標値を上回っており、ほぼ、全国値に近い結果であった。中学校2年生の数学においては、「数と式」の全ての設問で全国値を上回るなど、基礎・基本の定着に取り組んできた成果が表れてきていると言える。

一方で、小学校からの課題である国語の「書くこと」や、数学の「図形」は依然として課題であり、小学校段階の知識や技能を含めて繰り返し指導することや、一人一人の課題に応じた支援の更なる充実が必要であり、今年度から導入した Web 評価支援システムの効果的な活用を促していくことが大切となる。

また、今年度初めて実施した英語は、「聞く」「読む」「書く」の3領域全てで全国値を下回ったことから、早急な対策が必要である。

(2) 各学年の学力調査結果



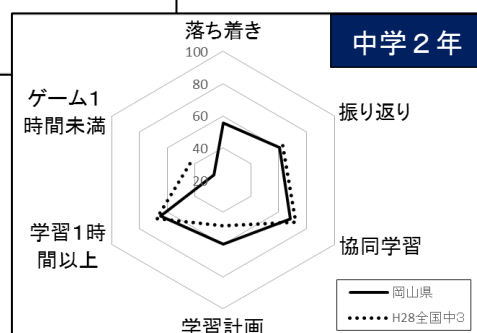
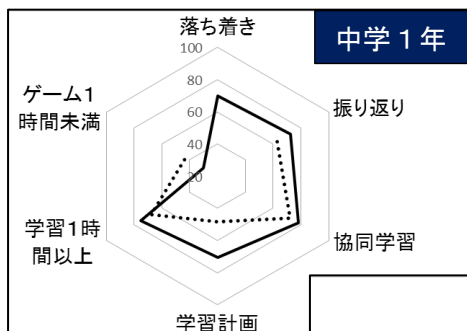
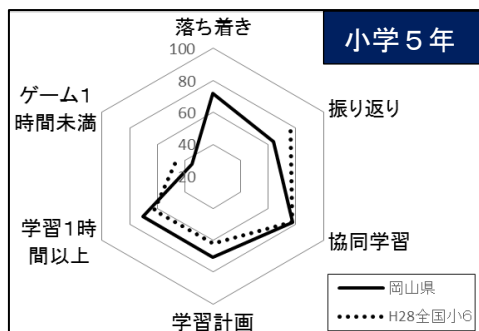
3 学習状況調査の結果

(1) 調査の概要

学習状況調査における質問項目は、前年度の全国学力・学習状況調査結果との比較となる。

調査対象学年の児童生徒は、自ら計画的に学習に取り組むことはできているが、ゲームの時間については、これまで課題であった3時間以上の長時間利用だけでなく、1時間以上利用している割合も全国調査と比べて高く、さらに、中学2年では、全体的に肯定的な回答の割合が低くなる傾向があることから、授業改善とともに家庭での生活習慣の改善に向けた取組を更に推進する必要がある。

(2) 各学年の学力調査結果 [単位：%]



【質問項目】

- ・「学校の授業で、落ち着いた雰囲気での学習ができていたか」
 - ・「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたか」
 - ・「平日、1日当たり、どのくらいゲームをしていたか」
 - ・「平日、1日当たり、どのくらい勉強をしていたか」
 - ・「自分で勉強の計画を立てて勉強しているか」
 - ・「授業で、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたか」
- ※「落ち着いた学習環境」の全国値は、学校質問紙のため対象外とする。

4 これまでの取組の成果と課題

これまでの全国及び県調査、学力定着状況たしかめテストの結果とも併せて分析すると、次のような成果と課題が見られる。

【小学校】

- 今回の調査においても、これまでと同様、学年が上がるに連れて全国値に近づく傾向にあることから、下学年も含め、つまずきの解消を図る取組が定着してきたと考えられる。しかし、3年生と4年生の間の結果に差があることから、低学年ではつまずきの解消が十分ではない現状が見られる。
- 5年生の学習状況調査結果から、計画的な家庭学習等が確実に効果を上げてきていることが分かり、今後、各学年の学習内容を当該学年内で確実に定着させ、つまずきを解消する取組を低学年から徹底することについて、再度学校全体で共通理解を図り、実践することで、小学校段階での学力は確実に向上すると考える。

【中学校】

- これまでの全国調査結果では、3年生は全国との差が大きい状況であったが、今回の調査結果からは、国語・数学ともに、1・2年生とも大きな差が見られないことから、1年生修了段階までは、小学校段階からの力のある程度維持していると考えられる。しかし、英語においては、「聞く」「読む」「書く」の3領域全てで全国値を下回ったことから、授業の進め方を含め、早急に対策を練り、実践していくことが必要である。
- 学習状況調査の6項目の結果からは、1年生と2年生の間に段差ができており、中学生になって、計画的な家庭学習が減ったり、ゲーム時間を含めたメディアの時間が増えたりしていることが、2年生以降の学力状況に大きな影響を与えていると分析できる。新学習指導要領で求められる資質・能力を育成するためにも、今後、協同学習等の授業の在り方の影響も、更に分析していく必要がある。

今後、全国調査の結果を含め、調査結果を経年的に分析していくことで、更なる的確な取組につなげていくことが重要である。

5 今後の取組

「何を」「いつまでに」「どこまで」「どのように」行うのかを明確にして取り組む。

【県教委の取組】

- 県教委や教育センターの指導主事、各教科の指導教諭等から成る結果分析委員会を開催し、各学年・教科の問題を分析するとともに、課題を踏まえた対策を明らかにし、全国調査の結果と併せて、指導資料を提供する。
- 児童生徒一人一人に応じた課題プリントを作成できる Web 評価支援システムの活用を市町村教委を通じて各学校に徹底するとともに、課題の改善が図られているかを測るために、秋頃にチェック課題に取り組ませる（市町村独自の取組を含む）。
- 特に、中学校においては、家庭学習に課題があることから、家庭学習に繋がる授業改善の一層の促進を図るため、学習内容を振り返ることができるような家庭学習の具体的な取組方法を提示する。

【各学校の取組】

- 学力向上担当者を中心に、担任や教科担当が、まずは当該学年・教科の結果を分析し、次いで学年や教科を越えて学校全体の状況を分析し、共通理解を図る。
- 1学期中の授業時間内において、つまずきの見られた課題をもう一度解き直させる。また、夏季休業中の課題等を含め、定着を進めるための具体的な取組を児童生徒に提示するとともに、休業明けには定着具合を確認するなど、全教職員で徹底して取り組むことを徹底する。
- 懇談等を活用して個人票を返却する際、スマホやゲームの時間等のルール、家庭での学習環境や学習時間について、保護者とともに確認する。また、夏季休業中に小学校では水泳指導、中学校では部活動の前後の時間を利用して、児童生徒に学習指導を行う場を設定するとともに、課題等の点検・評価を複数回行う。

【参考】市町村別の状況

※ 学力調査の結果 平均正答率(教科別)

名称	小学3年生		小学4年生		小学5年生		中学1年生		中学2年生		
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	数学	国語	数学	英語
全国値	80	77	71	77	76	73	73	68	70	58	61
岡山県	77	73	70	75	74	70	73	67	70	59	60
1 倉敷市教育委員会	77	73	70	75	75	70	71	63	69	58	59
2 津山市教育委員会	75	70	67	72	73	67	72	65	65	51	53
3 玉野市教育委員会	78	73	68	74	73	67	73	68	71	62	64
4 笠岡市教育委員会	76	74	69	76	75	70	73	70	69	57	57
5 井原市教育委員会	78	75	69	77	74	70	75	70	68	58	52
6 総社市教育委員会	79	75	72	76	76	73	73	68	72	61	59
7 高梁市教育委員会	77	73	69	75	74	69	72	68	72	64	64
8 新見市教育委員会	75	73	69	76	77	74	76	71	72	60	61
9 備前市教育委員会	79	74	70	74	72	67	75	70	70	60	60
10 瀬戸内市教育委員会	76	73	73	78	73	68	73	67	70	60	57
11 赤磐市教育委員会	77	73	68	72	75	68	71	67	68	57	56
12 真庭市教育委員会	78	73	70	76	74	72	72	70	70	56	57
13 美作市教育委員会	79	74	67	73	75	70	75	69	71	55	55
14 浅口市教育委員会	77	74	73	77	72	69	73	69	70	60	59
15 和気町教育委員会	78	75	66	74	74	69	75	69	70	64	62
16 早島町教育委員会											
17 里庄町教育委員会	80	78	72	76	75	70					
18 矢掛町教育委員会	81	79	71	83	76	69					
19 新庄村教育委員会											
20 鏡野町教育委員会	80	74	72	78	69	67					
21 勝央町教育委員会	82	73	69	74	78	73					
22 奈義町教育委員会											
23 西粟倉村教育委員会											
24 久米南町教育委員会	79	73	70	77	76	70					
25 美咲町教育委員会	79	75	73	75	72	69	74	69	70	55	57
26 吉備中央町教育委員会	77	75	66	72	76	71					
27 笠岡市・矢掛町中学校組合											
28 県立学校							92	93	90	88	91

※ 斜線の町村は、該当の学校が1校のため、公表の対象としない。

※ 県立特別支援学校(小学部)は受検者が各校2名程度であるため、公表の対象としない。

※ 県立学校には、県立特別支援学校(中学部)、県立中学校・中等教育学校が含まれる。